

呼吸器センター 内科部門（呼吸器内科）

1. スタッフ（平成23年4月1日現在）

科 長（教 授）	杉山幸比古
副 科 長（准教授）	坂東 政司
医 局 長（講 師）	山沢 英明
病棟医長（助 教）	中屋 孝清
外来医長（助 教）	間藤 尚子
医 員（助 教）	細野 達也
	中山 雅之
病院助教	鈴木 恵理
	中澤 晶子
	水品 佳子
	平野 利勝
	築瀬希代子
シニアレジデント	7名

2. 診療科の特徴

1) 呼吸器疾患の専門科として以下の呼吸器領域の疾患を網羅し、一般診療から高度先進医療まで幅広い診療を行っている。

腫瘍性疾患：原発性・転移性肺癌、縦隔腫瘍など
胸部悪性・良性腫瘍

アレルギー疾患：気管支喘息、好酸球性肺炎など

びまん性肺疾患：特発性間質性肺炎（IIP）、膠原病肺、過敏性肺炎、塵肺薬剤性肺炎、サルコイドーシス、びまん性汎細気管支炎（DPB）、肺リンパ脈管筋腫症（LAM）など

慢性閉塞性肺疾患（COPD）：肺気腫、慢性気管支炎

呼吸器感染症：肺炎、結核、肺真菌症、肺化膿症、膿胸、ニューモシスチス肺炎など

肺循環障害：肺血栓塞栓症、原発性肺高血圧症など

胸 膜 疾 患：自然気胸、胸膜炎、胸膜中皮腫など

呼 吸 異 常：睡眠時無呼吸症候群など

2) 呼吸器疾患全般の緊急医療体制を整備し、周辺医療施設からの救急搬送患者に常時対応している。

3) 最新の知見や技術を取り入れ、診断・治療に応用しており、主要機器として、ヘリカルCT、3D-CT、MRI、MRA、超音波診断装置、血管造影機器、ビデオ気管支鏡、気管支鏡下超音波診断装置、胸腔鏡、食道超音波装置、精密肺機能測定装置、アストグラフ、運動負荷検査機器、睡眠時無呼吸モニター（ポリソムノグラフィ）、気管支鏡下レーザー装置、高周波治療装置、気管支鏡下ステント留置、各種人工呼吸器を常備している。

4) 呼吸器外科医、放射線科医などと連携を密にして集学的治療を行っている。また、年間約15例の剖検を病理学教室との連携のもと行い、CPCを通して、意見交換を行っている。その他、当教室で開催のカンファレンスとしては、手術症例カンファレンス、チャートラウンド、退院サマリーカンファレンス、抄読会、リサーチカンファレンスを週1回行い、専門医の育成に向けた討議が行われている。また、認定医、指導医を目指す若手医師には、積極的に日本呼吸器学会を中心とした諸学会や海外の学会での症例報告や研究発表の機会を与えており、その論文化にも力を注いでいる。

5) 慢性呼吸不全などに対する在宅医療では、地域医療施設との連携において普及、発展に努めている。

・ 認定施設

日本呼吸器学会認定施設

日本呼吸器内視鏡学会認定施設

日本アレルギー学会認定施設

・ 専門医

日本呼吸器学会専門医・指導医

杉山幸比古

坂東 政司

山沢 英明

細野 達也

中屋 孝清

間藤 尚子

中山 雅之

鈴木 恵理

澤田 哲郎

澤幡美千留

日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医

杉山幸比古

坂東 政司

細野 達也

中屋 孝清

日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医

山沢 英明

中澤 晶子

鈴木 恵理

中山 雅之

澤幡美千留

日本アレルギー学会専門医

小林 晃

日本内科学会認定医・専門医

山沢 英明

日本内科学会認定医

杉山幸比古

他13名

日本プライマリ・ケア学会認定医

坂東 政司

ICD制度協議会 インфекションコントロールドクター

杉山幸比古

American Thoracic Society Active member

杉山幸比古
坂東 政司**3. 診療実績・クリニカルインディケーター****1) 新来患者数・再来患者数・紹介率**

新来患者数	1,381人
再来患者数	18,820人
紹介率	56.5%

2) 入院患者数（病名別）

病名	患者数
肺癌	324
肺炎・気管支炎	85
特発性間質性肺炎	74
胸膜炎・膿胸	15
気胸	13
気管支喘息	11
慢性閉塞性肺疾患	10
特発性肺線維症	9
縦隔腫瘍・悪性リンパ腫	8
睡眠時無呼吸症候群	7
サルコイドーシス	7
肺アスペルギルス症	7
肺結核・肺結核後遺症	4
うっ血性心不全	4
胸膜中皮腫	3
肺動静脈瘻	3
急性呼吸窮迫症候群	3
気管支拡張症	2
抗酸菌感染症	2
アレルギー性肉芽腫性血管炎	2
気道狭窄	2
特発性気道出血	2
胸腺腫	1
肺クリプトコッカス感染症	1
敗血症	1
肝肺症候群	1
心膜炎	1
CO2ナルコーシスによる意識障害	1
翼状片症候群	1
つつが虫病	1
FBS後の出血	1
肺腫瘍（孤立性線維性腫瘍）	1
二次性肺高血圧症	1
感染性腸炎	1
合計	609

3) 手術症例病名別件数

(びまん性肺疾患に対する胸腔鏡下肺生検を含む)

病名	患者数
肺癌	87
縦隔腫瘍・胸腺腫・胸膜腫瘍	8
間質性肺炎	3

気胸	2
肺アスペルギルス症	2
膿胸	1
肺腫瘍	1
気管支結石症	1
器質性肺炎からの出血	1
合計	106

4) 治療成績**5) 合併症例****6) 脂肪症例・死因・剖検数・剖検率**

死亡症例	患者数
肺癌	25
間質性肺炎	10
肺炎	8
特発性肺線維症	3
急性呼吸窮迫症候群	2
心膜炎	1
気胸	1
つつが虫病	1
合計	51

剖検数：8件（剖検率16%）

7) 主な検査・処置・治療件数

気管支鏡検査	365例
経気管支肺生検	164例
気管支肺胞洗浄	64例
経気管支針生検	7例
気管・気管支ステント留置	2例
APC (argon plasma coagulation)	1例
内科的胸腔鏡検査	10例
睡眠時無呼吸症候群に対するPolysomnography	7例
胸部超音波検査	90例

8) カンファランス症例

1. 間質性肺炎の剖検症例
2. 間質性肺炎の胸腔鏡下肺生検（VATS）症例
3. 膠原病関連間質性肺炎の胸腔鏡下肺生検（VATS）症例
4. 炎症性偽腫瘍が疑われた剖検1例
5. Hot tub lungのTBLBの1例
6. Multicentric Castleman's diseaseが疑われる胸腔鏡補助下肺生検2例
7. 間質性肺炎に合併した肺癌の剖検症例

4. 事業計画・来年の目標等

当科は肺癌患者さんも多く、きわめて多忙だが、来年度も医療安全に力を入れて、各種肺疾患の最先端の治療を行うのが目標である。